



洋上アルプス

No.332 2022年11月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL 0997-42-0331 FAX 0997-42-0333



令和4年度 松枯れ対策連絡協議会を開催（10月3日）



松枯れの現状と対策について意見交換

当保全センター会議室において令和4年度松枯れ対策連絡協議会屋久島支部会を屋久島森林管理署、環境省屋久島自然保護官事務所、鹿児島県屋久島事務所、屋久島町、森林総合研究所九州支所、屋久島ヤクタネゴヨウ調査隊の関係者20名が参加して開催しました。

当保全センター所長の司会進行により、各機関から令和3年度における松枯れ対策事業実績及び令和4年度の事業（予定を含む）について報告を受けました。

屋久島の松くい虫被害は西部林道周辺を除いては減少しているとの報告もあり、今後は西部林道周辺の松枯れ対策の必要性や、松枯れ処理については、親指大の枝も発生源となるため、枝条の処理をきちんと行う必要があるなどの意見が出されました。

また、森林総合研究所九州支所の金谷整一主任研究員から、絶滅危惧種のヤクタネゴヨウの衰退と保全活動について講義を受けました。

屋久島森林管理署及び当保全センターとしては、今後も松枯れ対策連絡協議会の関係機関と連携協力して、松の保全対策を講じていく考えです。

山神祭で安全を祈願（10月6日）

宮之浦にある牛床詣所において、当保全センターの山神祭を実施しました。

鳥居や神棚のしめ縄及び紙垂（しで）は当保全センター職員が手作りして飾りつけを行い、参加職員それぞれがサカキを捧げ担当する業務での安全を祈願しました。

これから冬に向けて、森林パトロール、屋久杉巨樹・著名木調査、ヤクシカ駆除等で現場に行く業務も多いことから、特に滑ったり転んだりしての怪我のないよう、また交通事故のないよう気をつけたいと思います。



牛床詣所にて

大分舞鶴高等学校が植生調査を実施（9月30日）

宮之浦嶽国有林224林班外において、大分舞鶴高等学校一年の生徒20名が森林植生調査を行い、当保全センター職員及び屋久島森林管理署森林官が調査の補助と指導を行いました。

この調査は、大分舞鶴高等学校が将来の国際的な科学技術人材を育成することを目的として先進的な理数教育の一環で平成26年から継続的に行っており、プロット内樹木の胸高直径、樹高、樹木位置の測定や下層植生の調査を行うものです。調査の結果をもとに林内の樹木の成長及び下層植生の推移を調査しています。

当日は台風の爪跡を感じさせないほど天候に恵まれ、初めは慣れない林内の作業に苦戦していましたが時間がたつにつれ自分たちで考え、各班で協力し最後まで怪我やヤマヒルの被害にあうこともなく調査を終えることができました。



森林植生調査指導の様子



宮之浦嶽国有林内のプロットの様子

韓国山林庁の職員が「レク森の保護、管理及び活用」の聞き取りで来所（10月4日）

韓国山林庁の職員2名が、屋久島レクリエーションの森の保護、管理及び活用について聞き取りを行うため、通訳と一緒に来所しました。

当保全センターの職員が、当保全センターの業務や屋久島の森林生態系を維持するための課題や取り組みなどを説明した後、韓国山林庁の職員からの質問に答える形で対応し、韓国山林庁の職員からは、韓国では山林庁が自然休養林の管理及び

運営を行っており、屋久島では、世界自然遺産地域の保全と利用をどのように図っているのか、また、世界自然遺産の持続可能な利用のために観光的な側面からの事例を紹介してほしいなど多くの質問がありました。

当保全センターでは、「屋久島レクリエーションの森の保護、管理及び活用に関する協定」を屋久島レクリエーションの森保護管理協議会と締結し、自然休養林（ヤクスギランド、白谷雲水峡）の利用者が安全・快適に利用できるよう施設等の補修、点検等を実施するとともに、当該活動に要する経費（森林環境整備推進協力金）を自然休養林において徴収していること等について説明しました。

終わりに韓国山林庁の職員から「今後、山林庁が行う自然休養林の管理及び運営を行う上で今日の説明は貴重であり、役に立ちました」との挨拶をいただき終了しました。



自然休養林について質問する韓国山林庁職員

小さな博物館が取り組んだ「屋久杉巨樹著名木調査」(その3)

— シンボル —

屋久島町 屋久杉自然館 館長 松本 薫

新型コロナウイルスに振り回された2年余りでしたが、ここにきて少しずつ日常が戻りはじめ、屋久島を訪れる観光客も増えてつあるようです。

屋久島と言えばやはり屋久杉。団体ツアー定番の紀元杉はそのアクセスの良さと迫力ある姿から不動の人気です。そして縄文杉も衰えをみせぬ存在感。登山バス乗り場の駐車場は久しぶりに活気を見せています。

巨樹著名木の代名詞ともいえる縄文杉。ここ30年の新聞スクラップをめくってみるとその話題には事欠きません。

約50年前、縄文杉が「最大の屋久杉」の称号を得た日、それは人との共生の始まりでもありました。

右にあるように、観光(経済)から環境保全へと移り行く様は、この屋久島が歩んできた半世紀に重なります。屋久島のシンボルとして語られる縄文杉ですが、その在り方を通して屋久島そのものが映し出されているようです。

平成4年の調査以来、30年ぶりに実施される今回の再調査は、屋久島森林生態系保全センターが主導して多くの関係機関も加わり実施されています。

屋久杉と屋久杉林の生態、人の介入による巨木

周辺の環境の変化などを把握し、また今後の継続的な調査の必要性を確認する良い機会となるはずです。そしてそれは、取りも直さず屋久島を見つめ直す一つの視点となることでしょう。一年後がたいへん楽しみです。

年	縄文杉関連記事(抜粋)
1966	岩川貞二氏が確認、当初は大岩杉と呼ばれる
1967	南日本新聞元旦の一面で「縄文の春(四千歳)」と紹介 九州大学眞邊大覚助教授により推定樹齢7200歳説登場
1971	高塚小屋建設
1984	着生していたヤマグルマが雪の重みで折れる 林野庁が科学的に年代測定し、2170歳以上と公表 土流出防止のため土嚢を設置
1992	一握りの砂運動始まる
1993	木道整備が本格化
1996	展望デッキ・縄文杉休憩所設置
2000	一般車両規制、シャトルバス運行開始
2002	大株歩道入口にトイレ新設
2005	縄文杉損傷事件発生、幹の一部がえぐり取られる 大雪で枝が折れる。翌年屋久杉自然館に展示
2011	屋久島町議会が入山制限条例案を否決
2017	入山協力金制度が始まる。縄文杉発見から50年



岩川貞次さん発見時のアルバムから
(写真提供:岩川貞之さん)



屋久杉自然館に保存展示されている縄文杉「いのちの枝」
(長さ5m、重さ1.2t、枝の年齢およそ1000年)



屋久島北部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和2年度）

〔標高1000mプロット（龍神杉歩道）〕 確認種数：60種（平成27年度調査：53種）

◆調査結果の概要 沢上流の右岸、益救参道を挟んで東側は崖地、西側は緩傾斜地が広がる。高木層はスギが優占し、ツガ、アカガシ、ヤマグルマが出現する針交混交林である。亜高木層～草本層の各階層でヤクシカの嗜好植物が優占し、ヤクシカの食害の影響を大きく受けた階層構造である。しかし崖地側は倒木・岩石等、立体的で複雑な構造から、ラン科植物や多くの着生植物が確認された。サルトリイバラ、アセビ、マテバシイ、ナナカマドにシカ食痕が見られた。

◆優占種の変化

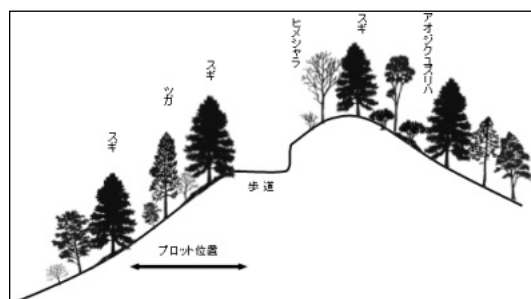
階層区分	平成17年度	平成22年度	平成27年度	令和2年度
高木層 (8.0m以上)	ツガ	スギ	スギ	スギ
亜高木層 (4.0m～8.0m)	ユズリハ	ユズリハ	ソヨゴ	アカガシ
低木層 (1.2m～4.0m)	サクラツツジ	ハイノキ	サクラツツジ	サクラツツジ
草本層 (1.2m未満)	サクラツツジ	サクラツツジ	ハイノキ	ハイノキ



食害を受けたマテバシイ萌芽枝



食害を受け続けているナナカマドの萌芽枝



標高1000mプロットの群落横断面図

※群落横断面図の樹形図については「財団法人サンワみどり基金（1981）樹の本」から引用・改変

「次世代の屋久島の森林・林業を守り育てる森林の体験・学習活動」シリーズ①

ウッドショップ木心里 代表 鹿島裕司 子育て支援tetote 代表 日高ゆかり

屋久島は太古の昔から森と人が密接に関わり、共存してきた歴史や文化があります。

この屋久島の自然を未来へ受け継いでいくため、令和4年度みんなの森づくり県民税関係事業「森林（もり）の体験活動の支援事業」にて森林の体験・学習活動に取り組んでいます。

第1回目は、屋久島森林管理署のふれあいチームの皆さんにご協力頂き、レクリエーションの森「ヤクスギランド」で、森の活動を行いました。安房保育園の園児さん41名・総勢57名（2日間）3、4、5歳児の園児さんを対象に、屋久島の生態系・垂直分布、歴史（先人たちの山の仕事）等、森を歩きながら学びました。

「モミ・ツガ・ヤクスギ・ヒメシャラ・ミヤコダラ、5種類の樹木名を覚えよう！」をテーマに、江戸時代に切り出された切り株の前で、カイリヨウバナコ、ヨキ（屋久島町より提供）を実際に見たり、木挽き唄を聴いたりしながら、昔の人々の山の仕事を学びました。秋の訪れを感じる森で、この森の水と里に住む子どもたちが繋がっていることを、感じてもらえる活動だったのではないかと思います。

引き続き、本年度中に製材所見学・間伐見学、植栽・木工体験を計画していますので、この島の森林を次の世代に繋いでいけるように取り組んでいきたいと思っています。



ヤクスギランドにて